

古典部門： …ハロー！ もうひとつMAD誌のお馬鹿な読書会に参加する覚悟はできているかな？…よろしい！…引き続き古典作品をぶちこわすために、きょうは長くわたしたちの心に残っている作品に取り組むことにする。MAD版で皆さんにお届けするのは、あの風変わりで素晴らしい名作…

『不思議の国のアリス』！

# ALICE IN WONDERLAND!



原題: ALICE IN WONDERLAND

作者: ジャック・デイヴィス

翻訳: 佐藤正明

出典: THE BROTHERS MAD (Ballantine, 1958)

アリスはお姉さんのそばにすわって、なにもしないでいるのにあきてきました。アリスはお姉さんが読んでいる本をのぞいてみましたが、絵がひとつもありません…

…ふいに、白ウサギがそばを駆けていきました。それに別におかしなところはありませんでしたが、ウサギがベストのポケットから懐中時計を取り出したのを見て、アリスはすぐさま立ち上りました…



好奇心にかりたてられて、アリスは野原を走っていました。ちょうど白ウサギがウサギ穴に飛び込むのを見ましたのであります。アリスはそのあとを追いました…

ウサギ穴はトンネルのようにまっすぐ続いていましたが、急に下向きになり、アリスは落ちていきました…

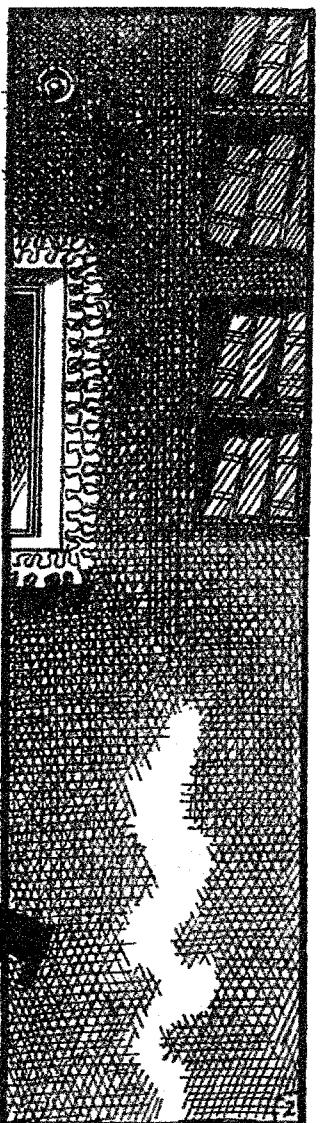
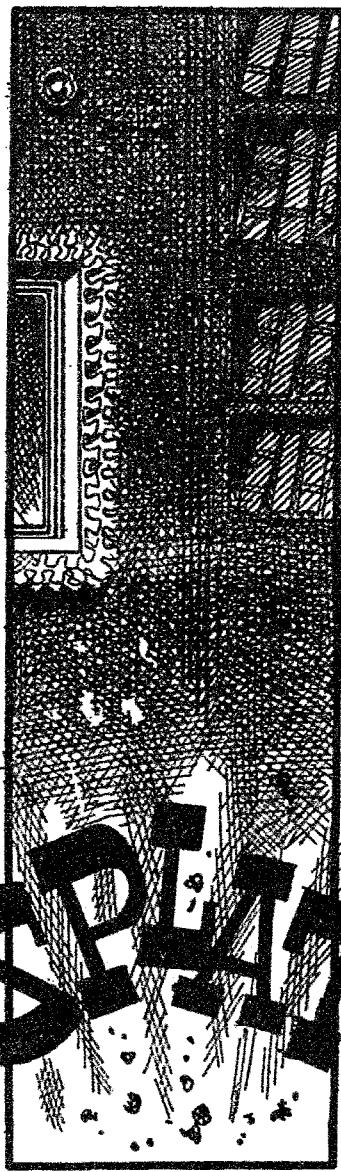
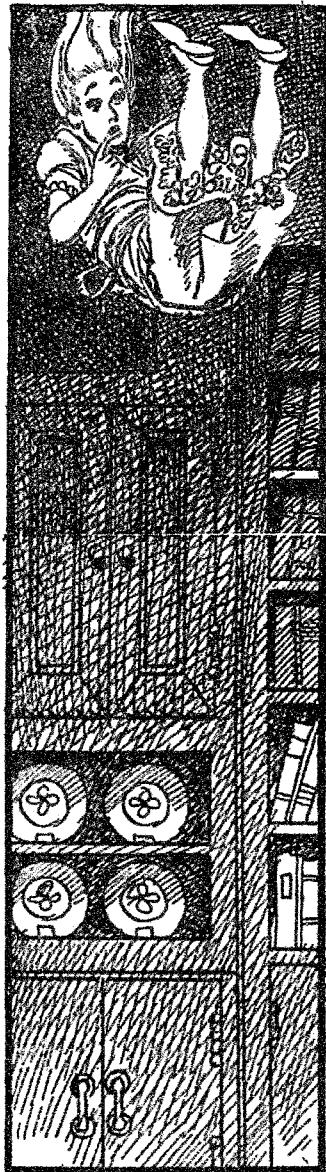
…とても深い井戸のようなところを落としていました。アリスは下の方を見ようとしたが、暗すぎて見えません。



下へ、下へ、下へ…「もう何

アリスは、まわりにいっぱい マイルぐらい落ちたのかし  
食器棚や本棚があるのに ら？」とアリスが言いました  
気づきました。

…ドシン！ バタン！ アリス  
は小枝の山の上に落ちて、落  
下はやっと止まりました。

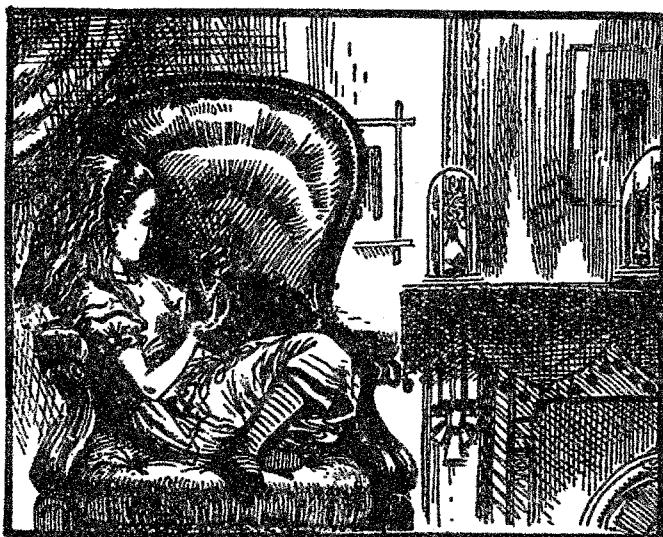


おや、たいへん！

(グシャッ)

…まあ、そんなもんでしょう！…それでは、つぎの冒險に進みましょう…『鏡の国のアリス』です！ アリスは大きな肘掛け椅子の片隅に丸まってすわっていました…

「鏡の中のお部屋に入つていけたらどんなにいいでしょう！」とアリス…「鏡がガーゼみたいにやわらかくなるっていうことにするの」そう言いながら、アリスはマントルピースの上にあがりました…



…どうやってあがったのか、じぶんでもよくわかりませんでしたが、鏡は銀色にかがやく霧のように溶けはじめたのです！ つぎの瞬間、アリスは鏡を通りぬけて…

おやまあ！ ごっこ遊びが実害をもたらすこともあります…まったくもっていまいましい鏡は…こなごなに碎けてしましました！ アリスはまわりを見回しました…



(ガシャーン)

…すると、急いで走り去る白ウサギがいました。アリスは、ウサギがなにか『ドタノ！』というようなことを言っているのを聞いたような気がしました。

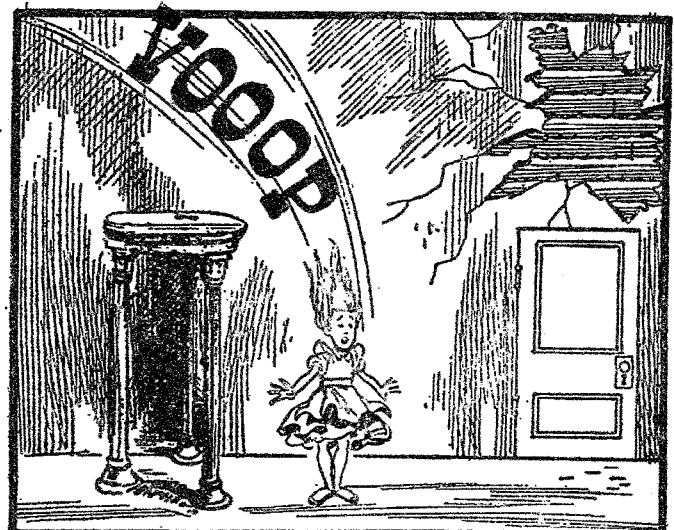
広間のはしに戸口が現れて、ウサギはそこに飛び込み、アリスがその後あとにせまります。

しかし、ドアは高さが15インチしかなく、壁は頭より堅かったので、アリスはあとを追うことができなかったのです！



唐突に、アリスは固いガラスのテーブルの前に来ました。その上には小さな金色のキーがのっており、キーのわきには、『わたしを飲んで』と書かれた小さな瓶がありました。

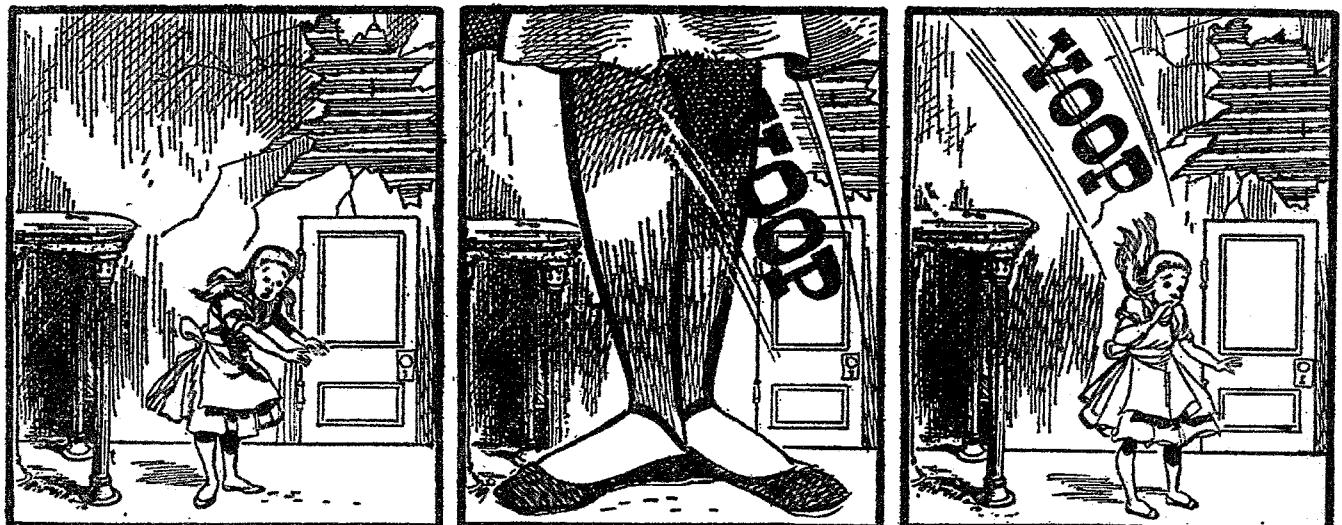
その小さなドアを開けてもいいことがありそうもないで、アリスは瓶のほうに取りかかり、中身を飲みほしました。「なんて変なの！ きっと私は望遠鏡をたたむみたいに縮んでいるのね！」とアリス。



(ヒューツ)

それでアリスは『わたしを食べて』と言

今度はからだのサイズはOK…ドア っているケーキで、また大きくなりまし …また『わたしを飲んで』の瓶を飲ん  
もOK…アリスはキーを取りにいきま た…キーを手にしてOK…ドアのところ で…サイズOK…ドアOK…キーを取  
した…アリスが小さすぎました！ 行って…でも、アリスが大きすぎ！ りにいくと…アリスが小さすぎ！



(ヒューツ)

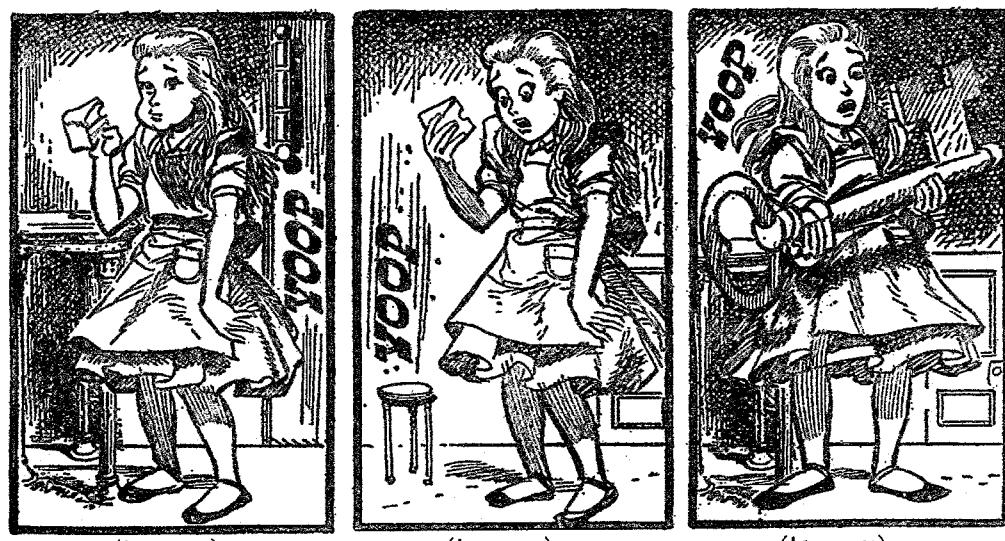
(ヒューツ)

…ケーキを食べて…キーOK…  
テーブルOK…サイズOK…  
K…でも、ドアが大きすぎ！

…また別の瓶を飲んで…キーOK…  
サイズOK…ドアOK…  
K…でも部屋が小さすぎ！

…もっとケーキを食べて…ドアOK…  
OK…サイズOK…テーブルOK…  
K…でもキーが大きすぎ！

…瓶…キーOK…ドアOK…  
サイズOK…テーブルOK…  
でも絵が小さすぎです！



(ヒューツ)

(ヒューツ)

(ヒューツ)



この手間がばかばかしくなったアリスは、管理人を呼んでマスター・キーで外に出してもらいました！ 外には三月ウサギといかれ帽子屋とねむりネズミがいました。

「席はないよ！」彼らはアリスに大声で言いました。アリスは言いました。「あらまあ、お話しウサギさん！」でも、三月ウサギはほんとうは話していませんでした。それはねむりネズミだったのです(彼は腹話術師でした。)※



\*And don't tell us you haven't heard that one before!

(※前にそんなこと聞いたことないよ、なんて言わないで！)

「よろしい！」帽子屋が椅子から勢いよく立ち上がって言いました。「ぼくたちのお茶会に加わってもいいよ！ 行こう。いくさ化粧をしようぜ！」

「でも、いかれお茶会といくさ化粧はどんな関係があるの？」とアリス。「いかれお茶会だって？ だれがいかれお茶会だって言った…」

「…これはボストンお茶会になるのさ！」と帽子屋。でも、アリスは白ウサギのほうが気になっていました。



(訳注:ボストン茶会事件ではインディアンに変装している)

今度こそ、アリスはウサギをつかまえる決心をしました…あの不思議な言葉『ドタノ』が何を意味するか知るために！…「ドタノ…どたのって何だったの…どったの？」…やっと分かりました！



(訳注:「どったの？」はバグス・バニーの口癖)

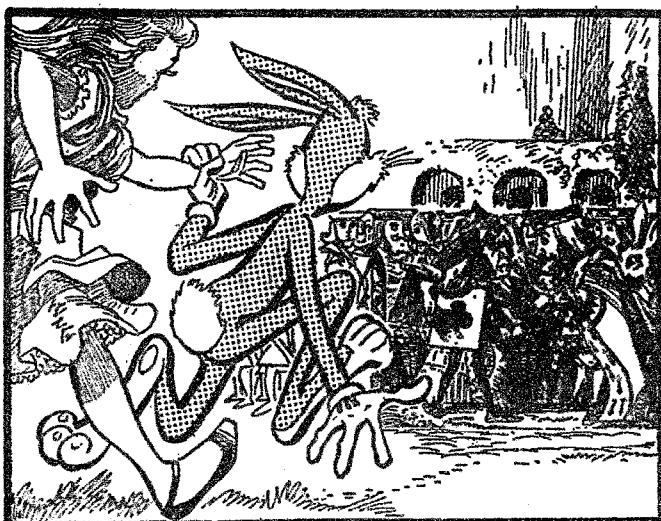
一瞬あとには、勇気は恐怖となり…狩人は獲物になりました…アリスは、前に映画で見たことがあったので、突然気づいたのです…このウサギは追いかけるには危険すぎる！



5

兎角するうちに、「裁判がはじまるぞお！」という一声が遠くで聞こえました。「行こう！」とウサギが叫びました。行く手では、王様と女王様が法廷を開いていました。

ハートのジャックがタルトを盗んだようでした。そして…(どうしてだって聞かないでください)つぎなる場面では、白ウサギがかの名高い詩『ジャバウォッキー』を読み上げます。



## JABBERWOCKY.

*'Twas brillig, and the slithy toves  
Did gyre and gimble in the wabe:  
All mimsy were the borogoves,  
And the mome raths outgrabe.  
  
" Beware the Jabberwock, my son !  
The jaws that bite, the claws that catch !  
Beware the Jubjub bird, and shun  
The frumious Bandersnatch ! "*

*He took his vorpal sword in hand :  
Long time the manxome foe he sought —*

*So rested he by the Tumtum tree,  
And stood awhile in thought.*

*And, as in uffish thought he stood,  
The Jabberwock, with eyes of flame,  
Came whiffling through the tulgey wood,  
And burbled as it came !*

*One, two ! One, two ! And through and through  
The vorpal blade went snicker-snack !  
He left it dead, and with its head  
He went galumphing back.*

「あなたにとって、それは歳 ……それはためになるの？  
月を経て残ったと信じられる 道徳を教えてくれるの？ そ  
れで売れるの？」とアリス！



「ジャックは有罪！」と女王が言います。「首をはねよ！」アリスが指ではじきます！ でもジャックは言います。「OKです！ わたしはトランプですから、スペアの頭を持つてます！」



つまりこれが、トランプの東をアリスが指ではじいたわけなのです…なぜなら、アリスはずっとトランプのひとり遊びをしていて…ズルをしているのです。

「この娘の首をはねよ！」と女王が叫びます。



「あなたなんて恐くないわ」とアリス。「あなたたちはただのトランプじゃない！」こう言ったとたん、すべてのトランプが空中に舞い上がり、アリスに降りかかってきました。



アリスはそれを振り払おうとして、自分がお姉さんといっしょに川岸にいるのに気づきました。お姉さんは、アリスの顔にかかった枯葉をやさしく払いのけていました。



「起きなさい、アリスちゃん！」お姉さん

は言いました。「夢を見ていたのよ！」「何てこと！冒険は夢でしたで終わ  
「えっ？」とアリス。「お決まりの夢落ち  
る古くさいやり方は、史上でいちばん  
陳腐な筋立てよ！」

そうして、アリスはお姉さんに、自分  
が見たおかしな夢を、思い出せるか  
ぎり話したのです…



…アリスの話が終わると、お姉さんは  
言いました。「確かにおかしな夢ね」そ  
して、アリスを精神分析医のところに連  
れてきました。